（７）利岡小学校

学　　校　　長　濱口　明大
校内研究代表者　市原　百梨佳

１. 研究主題

「複式授業で学びを深める児童の育成」
～思いや考えを伝える力を育てる国語科の授業づくり～

２. 主題設定の理由

本校は平成３０年度まで複式学級を有する学校として複式授業の授業改善や指導法の工夫等の研究を行ってきた。そして、この年から思考力・判断力・表現力を育てるために言語活動に重点を置いた国語科の授業づくりの研究に転換している。平成３１年度には完全複式校となり、複式授業のスタンダードを確立するため、学習リーダーを中心とした主体的に学ぶ態度の育成と「とも学び」の充実を目指した。令和２年度からは研究主題を「複式授業で学びを深める児童の育成」とし、学びへの意欲を高める導入の工夫や ICT 機器の有効な活用方法を探りながら、国語科を中心に見方・考え方を働かせる言語活動を取り入れる等の授業改善を図ってきた。また、昨年度は語彙力を伸ばすことと、「読むこと」の領域である物語文や道徳科の授業を通して登場人物の心情を深く読み取る力、「書くこと」の領域で感じたことを書き表す力を付けることを目指した研究実践を行った。

その結果、各種学力調査は全国平均よりも高い結果を得ており、基礎学力が定着していると考える。授業においても、学習メニューボードの指示に従って見通しを持ち、学習リーダーを中心に自分たちで授業を進めることができ､全児童が当たり前のこととして意欲的に取り組んでいる。

しかし､「語彙が乏しかったり、緊張したりすることによって思いをうまく表現できない」「言葉に表すのに時間がかかる」「要点が定まらない」「伝え方や表現の仕方が適切でない」等という場面が多く見受けられる。伝えたいことをどう表現すれば相手に分かりやすく伝えることができるのか、そこに課題が見られる。また、極小規模校の本校からやがて大規模校の中学校に進学することを考え、人前でも臆することなく堂々と思いを表現できる児童の育成が必要と考える。

そこで、引き続き研究主題を『複式授業で学びを深める児童の育成』とし、研究の核となる複式授業づくりの取組は継続する。そして児童の実態を見据えながら、全教育活動の中で意図的に表現する活動を設定して、自分の思いや考えを豊かにしっかりと表現できる（伝えることのできる）児童の育成を目指したい。その基礎・基本となる知識や技能を習得させる主要な教科は、やはり国語である。そこで副題を「思いや考えを伝える力を育てる国語科の授業づくり」として、国語科を中心に『話すこと』に重点を置いて研究を進めていくこととする。

３. 研究の進め方と方法

計画立案・・・研究主任
方法　　・・・毎週水曜日　15：05～
第１週－校内研修　　第２週－職員会　第３週－校内研修　　第４週－校内研修

４. 研究内容

児童につけたい力

◆学習規律
◆基礎・基本の力
◆思考力、<u>表現力（伝える力）</u>、対話力
◆学習リーダーとしての資質

表現力の育成を目指す

◎教材研究を深め、ねらいをはっきりさせる。
◎自分の思いや考えを言葉で伝える活動を取り入れる。
◎学校生活全体を通して言語環境を整える。

（１）学びを深める学習指導

・学習規律の徹底

＊学習の準備　…　教科書、ノート、下敷き、鉛筆、消しゴム、ものさし、赤青鉛筆（筆箱は出さない）

＊聞き方・話し方　…　「はい」の返事、はっきりとした声（「～してください」「～しましょう」の時は必ず返事をすること）

＊ノート指導　…　日付け、ページ、色分け、誰が見ても見やすいノート

・複式授業のスタンダードの確立と実践

＊単元計画・学習メニューボードの提示

＊主体的に学習を進めるための板書やワークシートの準備

＊学習リーダーの育成

＊とも学びの充実

＊ICT 機器の有効活用、毎日のタブレット使用

めあて　…�め
ひとり学び…㋒
とも学び　…㋑
まとめ　…㋺
ふりかえり…㋭
練習問題　…㋬

（２）国語科授業研究について

◎領域「話すこと・聞くこと」

○研究授業・・・(1 学期）３年　　(2 学期）５・６年、１・２年

○「ねらい」、そのために必要な「言語活動」と「ゴールイメージ」をはっきりと掴む。

○表現力、言語能力を付けるための取組

○評価・・・学習前と学習後の児童の変容（事前・事後アンケート、児童のノート等）

○発表朝会

○帰りの会での日直スピーチ

（３）授業改善・学力向上を目指した取組

①上学年クラスの複式授業を児童が参観

②複数教員による加力指導「ぐんぐんタイム」

③教員の学び合い「みてみて週間」の実施

「みてみて週間」として２週間設定し、各学級が国語科の授業を２時間以上公開

（４）その他の教育実践

①確かな学力の定着

・加力指導の充実

＊利岡タイム、ぐんぐんタイム

・家庭学習の習慣化と質の向上

＊自主学習交流、日記指導（週 2 回）

・読書活動の推進

＊自己目標（読書冊数）の達成、読書感想文コンクールへの応募

・新聞を活用した学習

＊「読もっか」へ全児童投稿、新聞コンクールへの応募、学級での新聞活用

・ICT 朝会

②心豊かな児童の育成

・キャリアシートの活用（年間 4 枚：1 年間の目標、運動会①②、1 年間のまとめ）

・人権教育と道徳教育の充実

・挨拶運動（児童会、全校児童による縦割り班での活動）
・仲間づくり…全校レク、春の遠足、山の学習、縄跳び大会、アルバム作り

③児童理解について
・Q-U アンケート実施と分析（年に２回実施・分析結果を踏まえ指導）
・校内支援委員会を毎月１回開催

④健康づくり、体力向上
・朝運動(わんぱくタイム)の実施…マラソン、縄跳び、リズムジャンプ、ボール投げ
・生活がんばりカード
・歯みがきブラッシング指導、フッ素洗口

⑤保小連携
・保小連携…利岡保育所と１・２年生の交流（生活科、国語科）

⑥小中連携
・市立中村中学校との連携

⑦その他
・地域との連携・協働（地域学校協働本部事業・・・習字、絵手紙 等）

５．今年度の成果（○）と課題（●）

○単元計画やメニューボードを作成し、単元ゴールや本時のめあてを明確にすることで、児童は目的意識を持ち自分たちで授業を進めることができている。また、とも学びの活動を通して日々の授業の中で「言語活動」を進めることができた。

○同領域、同単元の研究授業を行った。単式化によって、児童に必要な力を付ける上で、有効だった。

○各学級、適切な場面でタブレットや電子黒板、書画カメラ等を活用し、思いや考えを伝える力を育むためのツールとして使うことができた。特に、タブレットを使うことで、図や表、イラスト等を活用した発表資料を作成したり自分の撮影動画を見返したりして発表に生かすことができ、児童の伝える力を伸ばすことができた。

○“みてみて週間”を行うことで、単元観や教材観について協議することができ、児童につけたい力を焦点化することができた。

○聞き手を意識した発表ができるようになり、自身の思いや考えを（自分の言葉で）アドリブでも話せるようになってきた。原稿の棒読みでなく、聞き手に視線を送りながら訴求力のあるプレゼンができるようになってきている。

○行事などのふり返りでも進んで自分の意見を言うことが全児童に意識づけられてる。

●複式授業の中で２つの学年の学習活動をずらすことで児童の姿を見取り、評価するという点に課題が残った。授業の中で教師がどの場面で評価するのかを意識しておく必要がある。

●「伝える」という点では成長が見られるが、「人の話をしっかりと意味を理解しながら聞く」という力が弱く、問われたことに対して応答するという点で課題が多い。

●児童がとも学びをする際、それぞれの考えや意見は出せるが、他の意見に対して自分の考えや感想を持つことに弱さを感じた。教師がとも学びの充実につながるような手立てを考えておく。

●子どもたち自身が伝えたいと思える動機づけが必要。子どもたちが課題を見つけ出していけるような手立てを工夫していく。

●「語彙」が増えることで、伝えたいことがより伝わりやすくなる。今後も語彙を豊富にするための取組を継続する。

●「聞くこと」や「書くこと」の課題について協議し、指導方法を工夫が必要である。

●国語科と他教科とのつながりについて意識して指導していく。